

## 令和2年度 学生 FDSD 勉強会

令和3年2月5日

FDSD委員会

### 1 日時場所

2月8日(月) 11:00～12:00 (中央研究棟1階 第1会議室)

### 2 参加学生・教員 (敬称略)

参加学生：A、B、C、D、E、F

出席教員：青木課長、坪井入試広報委員長、藤村学生委員長、矢野教務委員長

司会進行・書記：西田 FDSD 委員長

### 3 本日のプログラム／議事録

#### 1) 卒業時満足度調査 (アンケート) の結果について (青木科長)

青木科長より、卒業時満足度調査の結果についての説明が行われた。

- ・三つのポリシーの説明。ディプロマポリシーの確認。
- ・アンケートの結果で今年度の特徴的な部分
- ・総合的な満足度は下がっている。パソコンの環境に不満があったという項目が、それ以外については、あまり変わっていないとの説明があった。

#### 2) 作短での学生生活全般の振り返り (授業や実習、学校行事など)

A: 大まかにいうと、短大生活は当初予想していたより充実していた。社会人なので、異なる世代との交流も貴重な体験だった。

B: 実習や学校行事の流れがよかった。授業が選択なのも大学短大ならではのと思った。

C: 作短に入学してよかった。将来の目標が一緒なので助け合えた。先生との距離が近かった。授業内容も分かりやすかった。コロナのために行事などが少なかった。

D: 佐野短とどちらにするか迷ったが、作短でよかったと思う。佐野短に進んだ友達もいるが、やはり作短でよかったと思う。先生方との距離が近い。オンラインで先生方とのふれあいが少なくなったのは残念。学校行事で後輩に見せるといったことが少なかった。

E: 全体的に楽しくて幸せだった。中学・高校と違って同じ夢を目指しているのので、支え合い、一生付き合える友達と出会えた。実習の時の訪問も嬉しかった。人に恵まれた。1年生の時に楽しかったからこそ、2年生の時にできないことがあったのが残

念だが、その事情も良く理解できるようになった。

F：高校までは勉強ばかりだったけれども、短大の学びは実技もあり、自分には合っていた。先生の接し方が学校に居やすかった。

3) これからも学んでいきたい事や、もっと学んでおけばよかった事など（後輩に伝えたいこと。）

F：就職してからも色々学んでいきたい。やりつくした感があります。周りの友達の実習に行った時の感想を知りたかった。先輩と仲良くしたほうがよい。

E：1年生の時は実践的なことが多かったので、「やった」という気持ちが多かった。オンラインで友達とも会えない、頭でやることが多い。実践的なものをしっかりやればよかった。後輩には、上下関係の中で先輩からヒントをもらうことがあった。現場に出た先輩からいろいろ聞いた。行事はどれも楽しかった。

D：パソコンを使ってのお便りづくりなど、PC スキルを上げたり、正しい言葉遣いを身に着けるなどやればよかった。

後輩に伝えたいのは、用事も課題も多いけど、それは絶対に役立つことなので、乗り切って行ってほしい。1年生の時の方が実習の準備の時にガンバルぞ、という気持ちになれた。ZOOMなどで話す時間を取るなど、課題はあったほうがよい。やりがいがある。1年で変わる見本を行事で示した。

C：保育に必要なことは学べたと思う。これからは就職して新しい職場でもっと学びたいと考えるだろう。基礎的なことを応用してやっていきたい。ベテランになったら、後輩にやさしくしていけるようになりたいと思う。オンラインは人の前で披露するという緊張感のある授業がなくなってしまった。後輩に伝えたいこと、課題は早くやる。緊張感をもって学ぶことが大切。

B：短大でやったことは現場で実践できる。現場に合わせて仕事をできる。PCの授業は2年生でやったほうがよいかも知れない。先輩後輩の関係をよくしていく技術を向上させたい。

A：自分が内定した園が障害児（インクルーシブ）を対象としている。遊びの誘い方、遊びの方法などが難しい。障害児保育の学び方をもっと学んでいきたい。ハーフの子が多いので、言葉の問題がある。後輩に伝えたいことは主体的に活動に取り組もう。チームリーダーが決まってしまう。リーダーの交代制でもよいので、多くの学生がチームリーダーを経験した方がよい。

4) その他（教員との意見交換）

出席した教員からの話

- ・務め続けることについて

自分が受け持った園児が卒園するまで、まず頑張ることが大切。

- ・敬語について  
敬語については、授業の中でも敬語を取り扱うなどして、後輩たちが敬語を学べる機会を増やして行きたい。
- ・行事について  
短大行事の大切さを改めて感じた。行事ができる環境をしっかりと作って行きたい。
- ・改善点について（オンライン）  
対面を重視した授業をして行くが、やむを得ずオンライン授業になった時にも、良質なオンライン授業を提供して行きたい。